

令和元年・令和2年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実践



令和2年11月19日(木)

奄美市立金久中学校

目 次

1	はじめに	1
	(1) 奄美市の概要	1
	(2) 学校の概要と生徒の実態	1
2	研究の概要	2
	(1) 研究主題	2
	(2) 主題設定の理由	2
	(3) 研究目標	2
	(4) 研究組織	2
	(5) 租税教育全体計画	3
	(6) 研究の経過	4
3	研究の実際	5
	(1) 令和元年度・令和2年度租税教室について	5
	(2) 社会科における取組	11
	(3) 道徳科における取組	14
	(4) 租税教育における啓発活動	17
	(5) 長期休業中における課題の取組	18
4	研究の成果と今後の課題	20
	(1) アンケート結果の分析	20
	(2) 研究の成果と今後の課題	21
5	おわりに	21

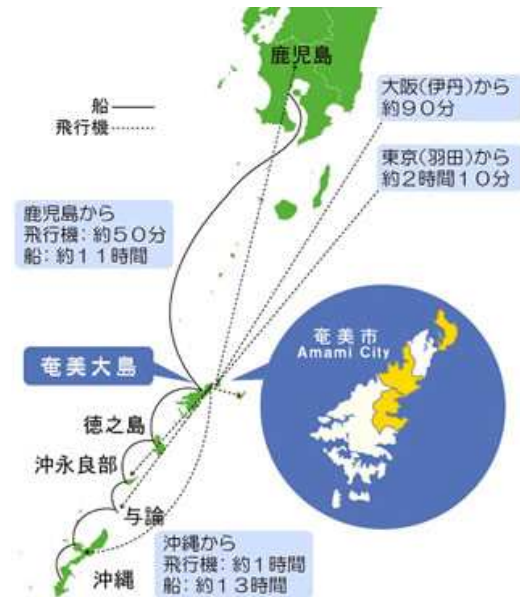
1 はじめに

(1) 奄美市の概要

奄美大島は、鹿児島から南へ 380 k m に位置し、全国の離島の中でも沖縄本島、佐渡島に次ぎ、3 番目に大きい島である。奄美市は平成 18 年 3 月、名瀬市、住用村、笠利町の 3 つの市町村の飛び地合併により誕生し、奄美大島の島全体の約 4 割を占め、奄美群島の拠点都市となっている。

人口約 43000 人、面積約 308, 28 k m² の豊かな自然環境をもつ奄美市は、奄美十景として知られる大浜海浜公園や美しい水平

線と亜熱帯の風景が魅力のあやまる岬などの景勝地の他、日本で 2 番目に大きいマングローブの原生林が広がる金作原原生林や国の特別天然記念物のアマミノクロウサギ等、学術的にも貴重な動植物が生息し、沖縄とともに世界自然遺産条約登録を目指している。一方、古くから伝承され五穀豊穡を祈り祝う島唄や八月踊り、伝統的工芸品の大島紬など、古きよき伝統文化や精神が大切に継承されている町でもある。本市は『自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷(しま)』をスローガンにまちづくりに取り組んでいる。下は、奄美市の市章とイメージキャラクターのコクト君(奄美市 HP より)であり、市民から親しまれているキャラクターである。



○奄美市の市章：



○コクト君：アマミノクロウサギ
と黒糖が由来



(2) 学校の概要と生徒の実態

本校は、奄美市の中心部に位置する名瀬港に隣接し、校区は名瀬小学校、伊津部小学校の 2 小から構成される。現在の生徒数は、318 名であり(令和 2 年 7 月 31 日現在)教職員数 28 名、13 学級の中規模校である。

本校は、『自主創造』・『研学鍛練』・『親和協力』の校訓の下、『夢に向かってあしたを切り拓く心豊かで、たくましい故郷(奄美)に貢献する生徒の育成』を学校目標に、学業のみならず、部活動や生徒会活動(毎朝の挨拶運動やクリーンアップ活動等)にも熱心に取り組んでいる。また、保護者や地域住民の学校教育への関心や期待は高く、PTA 活動や地域奉仕活動に積極的に参加するなど協力的である。

2 研究の概要

(1) 研究主題

租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。

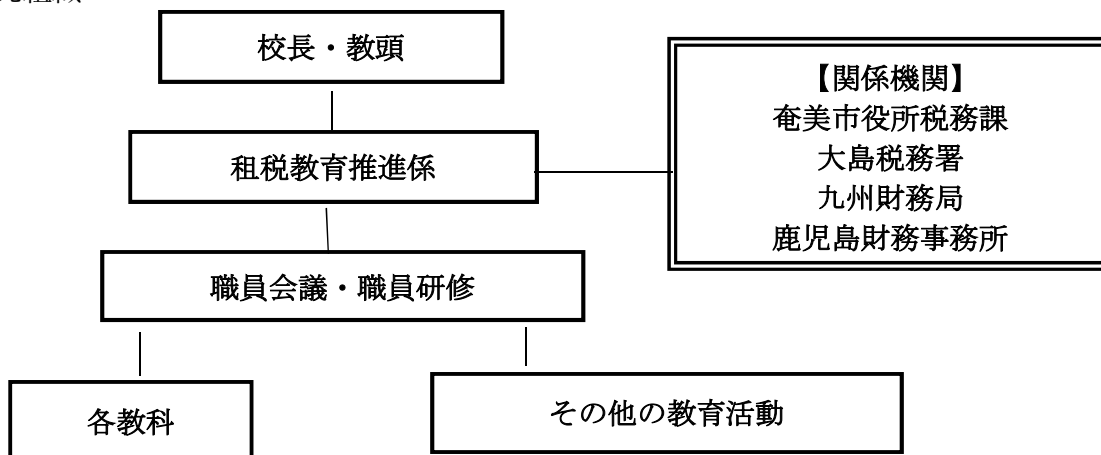
(2) 研究主題設定の理由

税や財政の働きについては、中学校3年次の公民的分野で学習するが、税制やその働き、財政の役割については、教育課程において5時間程度と少なく、生徒のアンケート結果から見ても、税の内容や仕組みや制度について理解が深まっておらず、「税」に関して難しいと感じる生徒が多く、税への興味や関心がある生徒の割合が低いのが現状である。さらに令和元年度は、消費税が8%から10%に増税されたことに対するマイナスイメージが強かった。そこで、租税教育を通して本校の教師から学ぶだけでなく、校外から様々な講師の先生方をお招きし、全学年を通して様々な体験的な活動で身近な生活の中にある税を意識させ、税についての興味・関心を深め、税の役割や意義を正しく認識させることで、主体的に社会に貢献しようとする態度を育てることができると考え、この主題を設定した。

(3) 研究の目標

- ① 税に対する興味や関心を高める。
- ② 税制や財政の役割について正しい知識や理解を深める。
- ③ 社会の一員として、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。

(4) 研究組織



(5) 租税教育の全体計画

学校教育目標	県租税教育目標
夢に向かってあしたを切り拓く、心豊かで、たくましい故郷(奄美)に貢献する生徒の育成	租税に関連した事項を通して郷土について関心を深め、公民としての資質を身に付け、国家及び社会における権利と義務の主体者として、自主的に判断し行動するための諸能力を育てる。
<p>(研究主題) 租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。</p> <p>(研究目標) ① 税に対する興味や関心を高める。 ② 税制や財政の役割について正しい知識や理解を深める。 ③ 社会の一員として、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。</p>	

目指す学校像	目指す生徒像	目指す教師像
1 明るく楽しい笑顔あふれる学校	校訓： <u>自主創造・研学鍛練・親和協力</u>	1 心身ともに健康で、人間性豊かな教師
2 当たり前のことを当たり前でできる学校	1 夢や希望を持ち、粘り強く頑張り抜く生徒	2 深い愛情と生徒理解に立って指導する教師
3 落ち着きと秩序ある、美しいが学校	2 よく考え、自ら判断し、正しいことができる生徒	3 生徒・保護者・地域から信頼される教師
4 生徒・保護者・地域から信頼される学校	3 思いやりの心を持ち、協力し合う生徒	4 常に研究と修養に励み、学び続ける教師
	4 健やかな体を持ち積極的に行動する生徒	

租 税 教 育 の 重 点 目 標
<p>1 全校体制の下、租税教育を通して、生徒の主体的な活動を充実させる。</p> <p>(1) 税務署等関係機関との連携に努め、定期的に租税教室を開催し、身近な税に着目した体験的な学習活動を進める。</p> <p>(2) 社会科において『租税』や『財政』をテーマにした授業を研究し、実践する。</p> <p>(3) 各教科と連携を図り、道徳の授業を通じた租税教育や書道・作文・標語等の税の作品に取り組みさせる。また、プロジェクト K では調べ学習を行い、班ごとにパワーポイント資料を制作させる。</p> <p>2 租税教育を通して学校や保護者、地域との連携を図り、啓発活動を行う。</p> <p>(1) 租税コーナーを作り、生徒の興味関心を高める。</p> <p>(2) 職員研修に租税教育を取り入れ、地域社会に租税教育に関する理解を促す。</p>

(6) 研究の経過

④ 令和元年度取組【1年目】

	研究内容
4月	租税教育研究推進校の委嘱，本年度研修主題・研究計画の策定
5月	租税教育推進係会：先進校の資料収集 租税教室打ち合わせ（大島税務署，奄美市税務課職員）
7月	租税教室（全学年）：奄美市税務課 租税教育推進係会：学期反省
8月	夏季休業中の課題『税に関する作文』，『税の作品』（国語科）
9月	『税に関する作文』，『税の作品』（国語科）出品 租税教室打ち合わせ（大島税務署職員，財務省九州財務局）
11月	租税教室（全学年）財政教育：財務省九州財務局鹿児島財務事務所職員） 県租税教育研究会出席（担当職員）
12月	生徒への租税に関する意識調査アンケートの実施 租税教育推進係会：学期反省
1月	税に関連する授業（3年社会科）
2月	『税の作文』表彰式
3月	租税教育推進係会：初年度の反省，次年度に向けた研究課題の取りまとめ

⑤ 令和2年度取組【2年目】

	研究内容
4月	本年度研修主題・研究計画の策定
5月	租税教育推進係会：職員研修，道徳における租税教育の進め方について 租税教室打ち合わせ（大島税務署，各税理士）
6月	職員研修『租税教育の進め方』，道徳の授業の実施について
7月	税に関する図書コーナーの設置 租税教室（全学年）：税理士（3名）全学年，全学級にて実施 生徒への租税に関する意識調査アンケートの実施 プロジェクトKを活用した税に関する調べ学習（2年社会選択） 租税教育推進係会：学期反省
8月	夏季休業中の課題『税に関する作文』，『税の作品』（国語科）
9月	『税に関する作文』，『税に関する標語』，『税の作品』（国語科）出品
10月	租税教育推進係会：活動報告にまとめ，資料作成，研究会に向けた発表準備 文化祭にて税に関する作品展示・発表（予定）
11月	租税教育研究会での発表（報告）担当職員
2月	『税の作文』表彰式
3月	研究2年目の反省・まとめ

3 研究の実際

(1) 令和元年度・令和2年度租税教室について

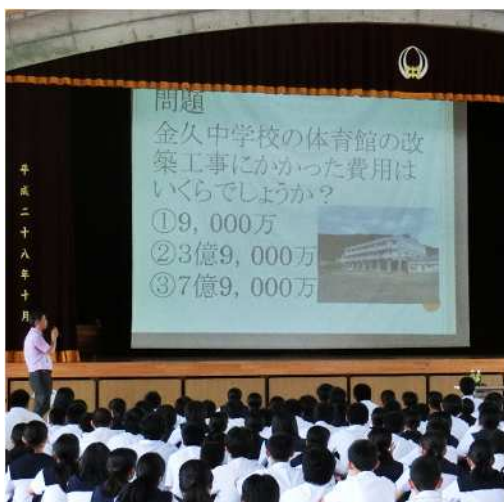
- ① 令和元年度租税教室（1回目）～令和元年7月16日（火）6校時 全学年実施～
講師：奄美市市民部税務課職員

ねらい

身近な奄美市を題材（テーマ）にし、税がどのように私たちの暮らしに役立っているかを理解する。

○実施内容

- ・税の種類やしくみ、財政の役割に関する講話（プレゼンテーションソフトを使っ
てのクイズ）や奄美市の財政や納税者の権利と義務に関する講話
- ・質疑応答



【租税教室の様子】



② 令和元年度租税教室（2回目）全学年実施

～令和元年11月12日（火）3・4校時 第1学年，5・6校時 第2学年～

～令和元年11月13日（水）1・2校時 第3学年～

講師：九州財務局鹿児島財務事務所職員4名，大島税務署職員1名 計5名

ねらい

- ① 日本の財政の現状を理解し、私たちの生活の中で税がどのように使われているのか理解する。
- ② 体験的な活動を通して、税の必要性について理解し、今後の社会の形成者として、日本の今後の財政の在り方について主体的に考える態度や自覚を育てる。

○実施内容

- ・日本の財政とその課題についての講話，動画の視聴
- ・タブレットを活用したグループワーク（予算編成学習ソフトの活用）
- ・各グループによる発表
- ・1億円（レプリカ）を持ってみようなど
- ・質疑応答

九州財務局鹿児島財務事務所による『財務大臣になって予算を作ろう』という題材での授業を各学年2時間単位、全学年を対象に学年ごとに実施した。初めに、資料を活用して日本の財政とその課題についての講話、動画の視聴を行い、『財政』とは何か、どんな役割があるのかを学んだ。税の種類や国の歳入や歳出、税の使われ方など、基本的な事項をわかりやすく、丁寧に説明して頂いた。特に、日本が現状抱える財政上の課題について、1990年以降、国の歳出が増える一方で税収が伸び悩み、差額を埋めるための国の借金がどんどん膨らんでいる状況を知り、生徒たちが驚いていた。そして、『この課題を解決するにはどうしたらいいのか、自分が財務大臣になって予算を考えてみよう』というわかりやすい学習課題が提示され、タブレットを活用したグループワークで生徒の興味・関心意欲が高まった。生徒の主体的な学習活動が促され、予算案のテーマに沿って積極的に意見を出し合う生徒の様子が見られた。また、難しい内容にも助け合って教え合う姿が見られるなど生徒の思考が深まった。予算をどう配分するかで将来の社会像が決まるということに気付いた生徒が多かった。

【各グループの予算案のテーマ例】

テーマ	解決策
高齢者が自立し子育てしやすい社会	高齢者が元気に働いて、社会に貢献してもらうため、逆に社会保障費を(年金・医療)を5%ずつ引き下げ、代わりに社会保障費(子育て)教育費を5%上げる。その他の税収(特に酒やたばこなどの嗜好品の税率を高くする(10%))
高齢者に優しい社会	社会保障(年金・医療・介護)は、高齢者の収入源であり、健康維持に欠かせないので、5~10%増額する代わりに、科学研究技術費を減らし、所得税や法人税を10%増税する。
地域や国民の安全と命が守られる社会	最近、アジア情勢の変化に伴って国の防衛の重要性が叫ばれているので、防衛費を10%上げる代わりに、所得税や法人税を5%ずつ上げ、その他の税収(特に酒やたばこなどの嗜好品の税率を高くする(10%))
子どもに優しく、教育が充実している社会	これからの社会を担っていく子どもの子育てと教育を充実させるため。社会保障(子育て)を5%あげる代わりに、法人税を10%、所得税を5%上げる。利益、所得の高い人から多く税を徴収する。

さまざまな意見が生徒から出されたが、グループワークの中で生徒達から多く出された意見が、以下のようなものであった。

- ・ 日本の財政の現状を考えた時、令和元年度末には929兆円もの国債残高(国の借金)が予想されており、この多額の国の借金を減らすために、税収を増やしながらも借金を返していかなければならないこと。
- ・ 所得税や法人税の税率を5~10%上げても借金総額をなかなか減らすことが難しいということ。

同時にグループワークを行う中で、少子高齢化がさらに進行すると予想される今後、改めて税を納める大切さと国民としての義務だということを実感したようだった。また、タブレット端末を用いた主体的な学習活動により、より税や財政の役割を理解し、社会に貢献しようという意識が自発的に芽生えたように感じられた。

【説明を真剣に聞く様子】



【アドバイスを受けながら真剣に考える様子】



【グループワーク 活発な話し合い活動】



【テーマ予算案の発表の様子】



【1億円の重さにびっくり！】



〈租税教室後の生徒の感想～振り返りシートより〉

【質問1】日本を良くしていくために、予算について今後どうすればいいと思いますか。

- 日本を良くしていくためには、高齢者と子供に向けての予算を多くしたらよいと思います。例えば、年金や介護、教育に予算を増やしたりする一方で、逆に法人税やその他の税を増やして少し負担を大きくするといったのではないかと思います。また、借金を冷やさないよう考えて予算を考えるとよいと思いました。
- もっと日本や国民のためにお金をかけてほしいと思うけど、歳入と歳出のバランスをとるのも難しいことだと思います。私は、今お金に困っている人とお金をたくさん持っている人の格差があることが課題だと思うので、所得税を増やして少しでもお金に困っている人が楽になれたり、国の借金が少しでも減ったりするよう使って欲しいと思いました。

- 今の日本は借金が多いので無駄遣いを減らすことが大切だと思いました。国民の大切なお金なので無駄に使わないで必要なことだけ、国民のためになるよう使用して欲しいと思いました。
- 子育て支援を充実させて人口が増えやすい環境づくりと 800 兆円以上もある国債を減らしていき、長期的な安定の実現のために、再生可能エネルギーの開発や医療技術の研究に力を入れて欲しいです。今の世代の幸福だけでなく未来の世代の負担までをしっかりと考えた長期的な政治の基盤を財政によって作り上げてもらいたいと思いました。税収の確保も大事だと思います。

【質問2】 この授業で勉強になったことは何ですか？

- 今の日本の財政状況がわかったこと。自分の思ってた以上に借金の多くてびっくりしました。
- 自分が考えていた以上に予算を組むということは大変で、社会保障を厚くしようと思っても借金が増えるということや借金を減らそうと思っても税を上げたりしなければならなかったことがこの授業を通してわかりました。
- 日本は他国と比べて国民の受益に比べ、国民の負担の水準が低く、アンバランスだということがわかりました。このアンバランスを解消するためには、私たちの負担を大きくするか、受益を小さくするかを考えなければならないということがわかりました。
- 税金の使い道を見ると、私たち国民が安心して暮らせるように考えられて予算編成されていることに気付きました。税金の大切さがとてもよくわかりました。

【質問3】 授業の中で難しかったことは何ですか？

- 自分たちのテーマに合わせて予算を編成するとき、社会を良くしていこう支出を増やすと借金が増えるので、バランスをとることが難しかったです。
- 今回の授業の中心であった財政問題が一番難しかったです。税金の種類も多く、それぞれの目的や使い道も違うので一つ一つを理解するのは難しかったです。
- やりたいことはたくさんあるけど、収入が圧倒的に足りないことや税を増やしたり歳出の割り振りを変えると絶対に不平・不満が出てくることが難しかったです。

【質問4】 租税教室終了後の生徒の感想

- 講師の先生方がとても丁寧にわかりやすく教えて下さって心から感謝したいです。タブレットを使って予算を決めていくのは難しかったけれど、グループの人とテーマに合わせて協力して話し合いをして考えることができ、とてもよかったです。
- 知らなかったことがたくさん知れてよかったです。税の大切さを改めて感じ、税を納める重要性や国民が納税することで、どれだけ役立っているのかを知ることができたので、これからもしっかり納税していきたいです。

③ 令和2年度租税教室

～令和2年7月14日（火）2～4校時 全学年、学級ごとに1時間ずつ実施～
講師：税理士3名（奄美市内在住）

ねらい

税の種類やしきみ，私たちの生活にどのように役立っているかを理解するとともに，現在の日本が抱える財政上の課題について，その解決に主体的に考え態度を育成する。

○実施内容

- ・税の種類やしきみ，財政の役割，日本の抱える財政上の課題に関する講話（プレゼンテーションソフトを使ってのクイズ）や資料『私たちの生活と税』やDVD『ご案内します アナザーワールドへ』を活用

【2年生グループ活動 積極的に話し合う様子】



【2年生 真剣に話を聞く様子】



【2年生 話し合った意見を発表する様子】



【1年生】



【3年生】



(1年生)

- ・ あらためて税金の大切さを感じた。無くなったらどうなるか考えたら怖いし、日本は終わると思いました。
- ・ 税金は、とても大切だと思いました。たまに消費税があって嫌だと思っていたけど、その税金は、将来の私たちのためなんだと思いました。だから、将来働いたら、税金をしっかり納めようを思います。
- ・ 税金は、私たちの生活とこんなに関わっているのだと思いました。だからこそちゃんと税金を払える大人になりたいと思います。
- ・ 税金はとても大切であり、なかったら不自由な人や老人が平等に生きていけなくなってしまうのでなくてはならないと思いました。そして、税金がなければこんなにも苦しいのかと動画を見て思いました。

(2年生)

- ・ 租税教室で税金とは何か？何に利用されているか？などクイズ形式で、とても楽しく知ることができました。また、なぜ必要なのか、税の課題について考え、学ぶことができ、税について興味をもつことができました。
- ・ 租税教室で税金がどんなことに使われていて、どれだけ大切なものかを知ることができました。私たちの生活に深く関わることなので、もっと深く知りたいなと思います。
- ・ 租税教室で日本の財政の厳しい現状や今後の課題について知ることができました。少子高齢化が進む今、どのように財源活用していくのか真剣に考える時だと思います。そして、私たち自身が納税者として意識を高くもって税をこれからも払っていきたいです。

(3年生)

- ・ 租税教室では、税の種類や役割などについて学びました。色々な税があり、仕組みや内容も複雑でとても難しかったです。これから私たちにもより深く関わってくることなのでもっと学んでいくようにしたいです。
- ・ 税の種類がたくさんあったことにとっても驚きました。今までは、8%から10%になった時になんで高くなるのかと思っていたけど、租税教室を通して、私たちが安全に暮らしていくことには、とても大事なものだと思いました。
- ・ 税金のおかげで私たちの暮らしは豊かで安心して暮らせていると思う。将来大人になったら自分の地域のためにもしっかりと税金を納められるようにしようと思いました。
- ・ 税についてまだ何も知らないということを痛感した。身近な所にも税が使われていることを知って税に対して『難しい』という先入観がなくなったのでよかったと思います。

(2) 社会科における取組

第3学年 社会科学習指導案（公民的分野）

日 時 令和元年 12月16日（火） 第2校時
対 象 3年3組（男子17名 女子20名 計37名）
指導者 教 諭 西 平 理 香

1 単 元 『政府の役割と国民福祉』

2 単元の目標

- (1) 身近な社会資本や公共サービスについて調べる中で、政府の経済的な役割に関心を持つ。（社会的事象への関心・意欲・態度）
- (2) 財政や税金の役割、日本の財政の課題について、主権者として関心を持たせ、効率・公正などの観点から、多面的・多角的に考察する等、意欲的に追究させる。（社会的思考・判断・表現）
- (3) 公債残高の増加や少子高齢化における社会保障の在り方等、財政上の課題について複数の統計資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、自分の考えや意見をまとめ発表させる。（資料活用の技能）
- (4) 国民生活と福祉の向上を図るために政府が果たしている役割について、具体的に理解させ、その知識を身に付けさせる。（社会的事象についての知識・理解）

3 単元の指導計画と評価の重点（全4時間）

学 習 内 容	時 数	評 価 規 準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
私たちの生活と財政 ・財政のしくみ ・さまざまな税金 ・税金の公平性	1	税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から、多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	税金の公平な負担に付いて政府や納税者の立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	
政府の役割と財政の課題 ・市場経済と政府 ・財政政策 ・公債の発行 ・これからの財政	1		公債の発行について、納税者などの様々な立場から多面的、多角的に観察して、公正に判断し、自分の考えを表現している。	政府の経済的な役割に関心を持ち、身近な生活から事例を探し、積極的に話し合いに参加している。
社会保障の仕組み ・社会保障のおこり ・日本の社会保障制度 ・社会保障の四つの柱	1	社会保障の基本的な考え方と日本の社会保障制度のあらましについて理解し、その知識を身に付けている。	社会保障の意義と働きについて、その考え方が生まれた歴史的背景とその意義についてこれまでの既習内容をふまえて考察している。	
少子高齢化と財政 ・少子高齢化と社会保障 ・社会保障の現在 ・福祉社会の実現に向けて	1	少子高齢化の進展と社会保障の現状について、資料を選択、関連付けながら的確に読み取っている。	少子高齢化における財政の在り方について、身近な生活の事例や諸外国との比較を通じて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	

4 本時の実際 (1 / 4)

(1) 主題 『私たちの生活と財政』

(2) 本時の目標

ア 統計資料をもとに国の歳出や歳入について調べ、財政について関心を持つ。

イ 税金の種類や仕組みについて理解し、税金の公平な負担について多面的・多角的に考察する。

(3) 本時の展開

主な発問や指示	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	情報提示の方法と内容
(導入：問題把握) ○ 先日実施された租税教室でどのようなことを感じ、学びましたか。	7分	1 先日、行われた租税教室の内容や生徒の感想をふり返り、「財政」＝「政府の経済活動」の意味を確認する。 2 学習課題を設定する。	1 先日、行われた租税教育の内容をふり返り、本時の授業に対する興味関心を持たせる。 2 学習課題を提示し、本時の授業に対する見通しを立てさせる。	資料1：先日実施した租税教室の映像や生徒の感想の抜粋 資料2：国民経済と政府 (教P146・2)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 政府は、どのような経済活動を行っているのだろうか。また、税金の制度はどうあるべきだろうか？ </div>				
(展開：本質究明) ○ 国の歳入と歳出を示した予算資料からそれぞれのどのような特徴がわかりますか。	10分	3 予算案(国の歳入と歳出の内訳)をワークシートに調べてまとめ、歳入と歳出にそれぞれのどのような特徴があるか、まとめる。 <個別→ペア学習>	3 資料を使ってまとめさせた後、特徴については、ペアで意見交換させ、自分の意見を発表させる。国民生活に必要なものに支出していることに気付かせる。また、予算は、国会で審議・議決されることを確認する。	資料3：国の一般会計予算 (教P146・1)
○ 税金には、どのような種類があるのだろうか？	10分	4 税金の負担者や種類、収めた税金の行き先について、資料を使って、ワークシートにまとめ、発表する。 <個別→グループ>	4 国税と地方税の違いや直接税と間接税の違いを、具体例を挙げて説明する。	資料4：生徒が知っている税の種類 資料5：主な税金 (教P147・3)
○ 他国と比べ、日本の税制には、どのような特色があるのだろうか？	10分	5 資料5を使って日本の税制の特色を話し合い、まとめる。 <グループ>	5 資料から他国と比べ、日本は税に占める直接税の割合が高いことに気付かせる。	資料6：主な国の直間比率 (教P147・4) 資料7：所得税の累進課税(教P147・5)

○ 税負担の公平性を図るためにはどのような課税の方法があるか。	8分	6 所得税の累進課税の方法と間接税の持つ逆進性について確認する。 7 公正の視点から、税制のあり方について考え、発表する。<個別→グループ>	6 所得税の累進課税は、所得の多い人ほど税率が高いが、間接税は全ての人が同じ税率であることに着目させる。 7 公正には、複数の考え方があること気づかせ、納税者として自分の考えをしっかりと持たせる。	
(まとめ：終末)	5分	8 本時の学習課題について、まとめる。	8 政府の財政の役割と税負担の公平性について、生徒に理解させる。	

(4) 評価

- ・ 資料を基に、国の歳出や歳入について調べ、財政について関心を持つことができたか。
- ・ 税金の種類や仕組みについて理解し、税金の公平な負担について多面的・多角的に考察することができたか。

7 板書計画

1 私たちの生活と財政

政府は、どのような経済活動を行っているのだろうか。
また、税金の制度はどうあるべきだろうか？

○財政の仕組み

- ・ 政府（国や地方公共団体）の経済活動 = **財政**
- ・ 国の予算

歳入：(税金) …所得税、消費税、法人税／公債金（借金）

歳出：①社会保障関係費、②国債費(借金返済)

③地方交付税交付金、③公共事業関係費

④文教及び科学技術関係費、⑤防衛関係費

○さまざまな税金

	国税	地方税
直接税 (納税者＝担税者)	所得税 法人税 相続税	道府県民税 市町村税 自動車税
間接税 (納税者＝担税者)	消費税 酒税 たばこ税	道府県たばこ税 地方消費税 入湯税

○税金の公平性

- ・ 所得税：**累進課税(所得が多くなればなるほど税率が高くなる)**
→高所得者の負担大
- ・ 消費税：同率課税→低所得者の負担大(**逆進性**)

○税負担の公平性についての生徒の意見

(3) 道徳科における取組

前年度、租税教育研究発表会にて発表された鹿児島市立清水中学校の全校体制での道徳の授業による租税教育の実施に感銘を受け、本年度本校でも、事前に職員研修で共通理解を図った後、道徳の教科書を使った実践を行った。

道徳指導案

- 1 主題名 助け合う社会を目指して
 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること
 (2) 公徳心, 社会連帯
- 2 資料名 「その子の世界、私の世界」 参考資料：国際理解教育実践資料集 (JICA)
- 3 本時の実際
- (1) ねらい
 ア 発展途上国において学校に行けない子どもたちの現状を知り、教育の重要性について理解する。
 イ よりよい社会実現のためには税が必要であるということに気づくとともに、社会の一員として身近なところから貢献しようとする主体的態度や資質を育成する。(租税教育の視点)
- (2) 展開

過程	主な学習活動	時間	主な発問	指導上の留意点
導入	1. 学校へ行けない世界の子どもの現状を知る。	8分	1. 4枚の写真を見て、気づいたことや感じたことは何ですか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> A 少年兵 B ゴミ捨て場で生まれた子供 C 難民 / D 児童労働者 </div>	1. 多くの意見を引き出す。 2. 社会の中で生きていくためには基礎教育の必要性(識字)について考えさせる。
	2. 学校へ行けない(教育を受けることができない)とどのような社会になるのか考える。		2. 学校へ行けない子どもたちはこれからどのような生活をするのだろうか。	
学習目標:より良い社会を作るために、必要なことや私たちにできることは何だろうか?				
展開 (磨き合う)	3. 学校に行けない理由について考える。(個→ペア)	9分	3. 学校に行けない理由は何だと思いますか。(社会的背景や原因について考えさせる)	3. 資料1を提示し、多くの意見を引き出す。(ペアごとに発表) ・資料2を提示し理由を8つ確認する。
	4. 教育が受けられないことで起こる問題は何か考える。(個→ペア) また、さらに派生する問題についても考える。(ペア)	3分 10分	4. 教育が受けられないことで起こる問題は何かと思いますか。さらに派生する問題についても考え、問題がどのようにつながっているだろう。あなただったらどのような方法で解決しますか?	4. 資料4を提示する。社会生活を営むのが困難な状況になることに気付かせる。 資料5を提示する。
	5. “負の連鎖”の資料を見て、教育を受けられないとどのような生活になるか理解する。	3分	5. 学校へ行けない＝教育を受けられないとどのような生活になるのか考えてみよう。	5. 教育を受けられない結果、多くの“負の連鎖”になっている状況を説明し、簡単には解決できない状況にあることに気付かせる。(身の回りでも起こりうること)
(見つめる)	6. 日本の義務教育について考える。	7分	7. 日本の教育はどのようななっていますか? <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ・義務教育(授業料・教科書の無償)→税 ・1年時に配付される教科書代は約¥8,000/人 ・授業料1年間に約100万 </div>	6. 義務教育の必要性和大切さに気づかせる。 ・生徒自身も納税者であり、消費税を納めていることを確認し、税金によって教育費が使われていることに気付かせる。
終末	7. 税の役割について考える。	10分	8. 社会の一員として身近な所からできることを考えてみよう。	7. 税の役割について理解し、自らの行動で主体的に貢献できることに気付かせる。

(3) 評価

- ア 発展途上国において、学校に行けない子どもたちの現状を知り、教育の重要性について理解することができたか。
- イ よりよく生きる社会実現のためには税が必要であるということに気づき、主体的な行動で社会貢献しようという態度をもつことができたか。(租税教育の視点)

1 学校へ行けない理由は何だろう。

・



2 教育を受けられないことで、どんな問題が起こるだろう？

・



3 ペア活動行い、『負の連鎖』の資料を見て、感じたことを書いてみよう。

4 よりよい社会を作るために社会の一員として自分のできること、これからしていきたいと思うことを書いてみよう。

一人一人が社会の大切な一員…。
そして、一人一人の力が社会を
支えている。



【生徒の授業の様子 1年】



【生徒の授業の様子 2年】



【生徒の授業の様子 3年】



【生徒の授業後の感想】

- 税の大切さを感じ、世界には学校に行きたくても行けない子どもたちがいること、教育を受けられることへのありがたみを感じました。学校に行けることに感謝して、一生懸命、学びたいと思いました。自分たちが大人になったらしっかりと税金を払いたいです。
- よりよい社会を作るために、世界には『負の連鎖』から学校行くことができない子どもたちがいることをふまえて、どれだけ今自分ができている生活がすごいことなのかを心に刻みたいです。そして、だからこそ将来のためにできる勉強をしっかりと、自分たちが社会の一員として活躍できるようになりたいです。
- 自分たちがこうやって安全に幸せに暮らせて、教育も受けられるのは当たり前のことじゃないんだなと思いました。将来、税を払う年齢になったらしっかりと納税したいです。

(4) 租税教育における啓発活動

① 職員研修

職員研修を通じてすべての教職員が、租税に関する興味関心を高め、今後の租税教育に共通理解の下、全校体制で取り組んでいけるような租税教育の確立を目的に実施した。

内容については、租税教育の研究主題とその目的、組織、租税教育の全体教育と流れについて租税教育推進係を中心に説明した。特に、道徳の授業における租税教育については、事前に道徳科の担当教諭と指導案検討、打ち合わせを行い、校内研修にて説明を行った。



② 租税コーナー（司書教諭との連携）

司書教諭と連携し、図書室前のスペースに『租税コーナー』を作り、生徒の税に関する興味関心が高められるよう身近な本をイラスト付きで紹介し、設置した。



〈展示書籍〉

③ 『税の作品』の優秀作品の掲示と紹介

- ・ 租税教室が行われる週間（7/13～17）に、令和元年度、税の作文の優秀作品（本校生徒や奄美大島出身生徒の作品）を給食放送にて朗読し、放送した。奄美大島出身の生徒の作品を掲示し紹介することで、より税の大切さが身近に感じられ、税に対する関心が高まったように感じられた。



- ・ 令和元年度、税の作文の優秀作品を奄美 FM や大島税務署のご協力もあり、放送して頂き、市民への啓発活動も行うことができ、生徒本人達もよい経験だった。

(5) 長期休業中における課題の取組

- ① 令和元年度は、国語科による書道作品、社会科による税の作文を夏休み課題として取り組んだ。特に社会科の税の作文については、全校生徒の課題とし、提出された作文のうち、54点を出品した。そのうち、2点が『大島地区租税教育推進協議会会長賞』、『奄美大島納税貯蓄組合連合会会長賞』を受賞した。以下の作文が受賞した作文である。令和2年度は、昨年度と同様、全校生徒の課題として取り組み、出品数が大幅に増加し、111点もの作品を出品することができた。

～大島地区租税教育推進協議会会長賞～

「おかげさまで」

奄美市立金久中学校一年

「税金って、何のため？」

そう考えたことはありませんか？私は買い物をする度に思っていました。百円のものを買うと自然と八円ついて上乘せされます。そして十月以降は、十円が上乘せされるのです。「何のためにあるの？」と思う人も多いでしょう。しかし、税金の世界に一步踏み込んで仕組みや使われ方を知れば、考え方ががらっと変わるはずです。

助けを求めると当たり前のように来てくれる救急車、一刻も争う患者を乗せて運ぶドクターヘリ、事件、事故を解決してくれる警察。これらは税金で担われています。このように税金は日本を支えています。「税金のおかげ」で私たちは幸せに暮らしているのです。

私は、小学校一年生の時に交通事故にあったことがあります。事故にあっただけで救急車、パトカーが来てくれました。小学校一年生の私は、痛さのあまり大泣きでした。

来てくれた警察、救急救命士の方たちは、「大丈夫、大丈夫。」と言って下さり、とても気持ちが楽になりました。その一方、私の保護者は、きっと不安だったことでしょう。私のけがの状態への心配、それに併せて医療費の心配があったと思います。しかし、海外では、医療費にプラスして救急車両にも費用がかかりますが、日本では税金によって担われているのです。

私は思います。外国のような状態で国民は安心して暮らせるでしょうか。納税は、日本国憲法に定められた義務ですが、この義務は、私たち日本国民を助けてくれているのです。「税金を払うのは損。」と考えるのではなく、「税金はいつか自分を助けてくれる。」と考えられるようになれば、きっと脱税する人はいなくなると思います。そして、この先、私も納税する 때가来ます。私自身が税金に助けられたということを忘れずにしっかり納税できる大人になりたいです。

「税金、ありがとう。」税金があったからこそ私たちは、学校に通えています。

病気を病院で診てもらっています。公園で遊べます。たくさんさんの命が救われています。税金がない社会なんて考えられません。本当にありがとう。おかげさまで、毎日がとても幸せです。



～奄美大島納税貯蓄組合連合会会長賞～

「景色の中に」

奄美市立金久中学校二年

「消費税が十パーセントになる！」というニュースを聞いた時、私は「えー。」と思いました。五パーセントから八パーセントへ、さらに十パーセントまで上がるのか。一体どこまで上がっていくのだろう、と考えました。

そもそも、税金とは何のためにあるのでしょうか？何となく私たちの生活に役立っているということは知っていましたが、税金についてあまりわかっていませんでした。そんな時私は、あることを知りました。私たち中学生の教育費は年間約百万円であり、税金から支払われているということです。私たち一人一人のために、そんな多額の税金が使われていると知り、驚きました。それだけではありません。学校のグラウンド、体育館、校舎、教科書…。私たちが勉強するためには、たくさんの税金を必要としているのです。

私の生活している身の回りにも、税金は使われていました。登校しているときに使う道路。信号機などもそうです。学校から見える港、町の中心に建てられた市役所もそうです。私たちが普段当たり前だと思っている景色は、税金あってこそなのです。

そう考えると、実は税金は私たちにとってごく身近なものだと感じます。買い物をする時も、「消費税が十パーセントだから少し高くなるなあ。」と思うよりも、「私が払った消費税は何になるのかな？」と考えたほうが誇らしくなります。もしかしたら、私の払った税が、奄美のきれいな自然や環境を守ることに繋がっているのかもしれない！そう考えると、わくわくしませんか？

それと同時に、まるで当然のように税金を払っている人がたくさんいるなど思いました。そうやって税金を納めている人たちのおかげで私たちは生活することができます。名前も知らない人によって助けられ、もしかしたら私の払った税金も、誰かを助けているのかもしれない。税金の中で、私たちは助け合っているのです。ふと見た風景は、税金によって成り立っており、人々の助け合いによるものなのです。

私にできることを、自信をもってすることで誰かの役に立てたらいいな。そして、私たちのために税金を納めてくれている人がいることを忘れずに、過ごしたいです。

② 税の標語

標語は、令和2年度、2年生の社会科の授業の取り組みの一環として取り組んだ。110点もの提出があり、その中で86点を中学生の税に関する作品『標語の部』に出品した。また、文化祭でも優秀作品を掲示し展示を行う。以下は、その作品例である。

税金を 知って納めて 安心社会

税金は 輝く未来への チケット君

税金が 回って回って みんな幸せ

税金を 納めてつかむ みんなの幸せ

税金は みんなの暮らしを支える ヒーローだ

税金は 幸せの種 花開く

税金は 幸せのキズナ つむいでる

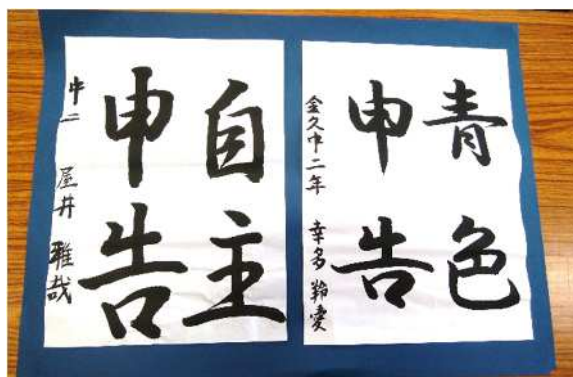
税金が 住みよい町を 作ってる

税金で 守ろう笑顔 豊かな自然

納税で つなげる幸せ 育てる未来

③ 書道作品

令和元年度、2年度の2年間に渡り、国語科に協力をもらい、税に関する書道作品にも取り組み、すべての作品を中学生の税に関する作品『書道の部』に出品した。令和2年度は、16点の作品を出品しました。



4 研究の成果と今後の課題

(1) アンケートの結果の分析

本校生徒の実態と租税教育を通じた研究の成果と今後の課題を把握するため、全校生徒に税に関するアンケートを行った。令和元年12月と令和二年7月の2回実施した。以下は、アンケートの結果である。

① 税について興味・関心がありますか。

	ある	少しある	あまりない	全くない
令和元年度12月	14%	42%	27%	14%
令和二年度7月	13%	57%	25%	5%

② 税について家庭で話をしますか。

	する	少しする	あまりない	全くない
令和元年度12月	12%	16%	51%	21%
令和二年度7月	8%	22%	50%	20%

③ 税金が必要だと思いますか。

	必要だ	少し必要	あまり必要ない	必要ない
令和元年度12月	77%	10%	13%	0%
令和二年度7月	90%	10%	0%	0%

③ 租税教育を通じて、税の役割や大切さなど、税に対する理解と納税意識が深まったか。

	深まった	少し深まった	あまり深まっていない	全然深まっていない
令和元年度12月	35%	45%	16%	4%
令和二年度7月	40%	55%	4%	1%

※ は、数値から租税教育の成果が見られたと考えられるもの。

 は、数値からあまり租税教育の成果が見られず、今後の課題であると考えられるもの。

(アンケート結果の分析)

- ① 2年間の取組により、税に関して全く興味関心をもっていない生徒の割合が低くなっているものの、生徒の興味関心を高める活動をさらに積極的に進めていきたい。
- ② 家庭での話題の項目には、大きな変化は見られないが、家庭での話題なることが少なく、今後、家庭への租税教育の啓発活動が必要である。
- ③ 税金の必要性、有用感については、当初から肯定的な生徒が多かったが、「あまり必要でない」、「全く必要でない」と感じる生徒の割合が0%であった。
- ④ 税の役割や大切さ等、税に対する理解を深め、納税者としての意識が高まったかの問いについては、「深まった」の割合が多く、一方で「深まっていない」、「全く深まっていない」の割合が大きく低くなっている。

(2) 研究の成果と今後の課題

(研究の成果)

- ① アンケート結果からもわかるように、2年間の租税教育を通して、租税への正しい知識や理解を深めるとともに納税者としての意識や自覚を持つ生徒が増えた。
- ② 職員研修等を通じて、社会科の授業での取組だけでなく、国語科や道徳科等、他教科とも連携を図りながら、全校体制の下、全校生徒を対象に実践活動に取り組むことができた。今後は、特別活動や総合的な学習の時間や生徒会との連携を図り活動を広げたい。
- ③ 税や財政の意義や役割を理解し、今後の社会の在り方や課題について学習する中で、「自分達に何ができるか」等、社会の一員として主体的に考え、納税者としての自覚はもちろん地域や国に貢献したいという意識や態度を育成する土台作りできた。

(今後の課題)

- ① 租税教室や税に関する学習に取り組む中で、税を身近なものに感じ、税に関して「難しい、わかりにくい」と感じる生徒は少なくなってきたが、今後も生徒の税に関する興味関心を高めていく学習活動を進めていくことが必要である。そのためには新聞記事やニュース等、身近な話題を取り上げたり、生徒の興味関心のあるテーマについて調べ学習やディベートをしたりする等、授業の中で生徒の主体的な学習活動を進めていきたい。
- ② アンケート結果にもあるように、PTAや家庭教育学級を通じて、保護者にも積極的な働きかけを行い、家庭への啓発活動を充実させていきたい。また今後、生徒が理解し学んだことを発表、学校から地域や家庭に発信できるような機会を増やしていきたい。

5 おわりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、本校の課題をふまえ「租税教育を通して、税に関する興味・関心を高めるとともに、税や財政についての理解を深め、主体的に社会に貢献しようとする態度や資質を育成する。」を研究主題に、研究に取り組んできた。今回の租税教育が、将来、生徒一人一人が未来を見据え、「地域や国のために何ができるか」を考え、主体的に行動し貢献できる社会の一員となるきっかけになれば幸いである。

最後に、このような機会を与えてくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、大島税務署・関係諸機関の方々には懇切丁寧なご指導とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。